

(新潟市社会教育委員会議)

令和 3 年 10 月 6 日

ワークショップについて

氏名 笹川 博人

- 1 日 時 令和 3 年 9 月 28 日 (木) 14:00 ~ 17:00
 2 会 場 黒崎市民会館
 3 参加者属性 ・公民館運営審議委員会・図書館協議会委員・ユースアドバイザー
 4 意見交換を行った活動事例

具体的な活動事例はなかったものの、音声訳ボランティアの活動事例や白根高校+公民館のC・C講座に対する関心が非常にあったことを報告したい。その上で皆さんが抱える課題に対してのヒントを見い出してもらえるようだ。特に学校教育と地域という問題が一番重要との意見があり、結論としてもその方向で意見がまとまったようだ。

5 社会教育委員として、ワークショップを運営して感じたこと

初対面の人どうし意見を交わすことは短時間では難しい。もっと雑談や自己紹介に時間を取った上で、ワークショップをやりかかったものだ。それでも問題の解決策が見つからないとはいえ、皆さん共通にそれぞれ課題をかかえて常日頃活躍されていることがよくわかり、私自身参考になることが多かった。特に子育て世代の若い方が、公募で協議会委員を務められていることに敬意を表すものである。

6 次世代育成につなげるための課題

1. 「若者支援センター」に来る若者達のやる気のなさ、地域に関わろうとしない姿勢に課題をみるものだ。
2. 年配者の公民館活動の少なさが課題である。
3. 時代の変化（通信機器の発達など）で図書館をめぐる環境も変わり、利用状況も当然変化するなかで、どうすればより利用状況を高めることができるのが課題。
4. 子育て世代が子育てと両立しながら、仕事ややりがい（公民館や図書館活動）を維持しつづけられるか聞きたい。
5. 学校を地域と関わる方向で持って行きたいが、コミ協などうまく連携することが難しい。

7 課題の解決策、ヒント

1. 若者達をボランティア活動まで持っていくことができればいいのだが。
2. 高校生などが年配者に働きかけることで、年配者の積極性を引き出したことがヒントになる。
3. 図書館も来館を待っているだけでなく、市民や学校などへ働きかけることが必要でないか？
4. 若い人が積極的に公募委員として図書館や公民館に関わることや、そのための行政のバックアップも必用ではないか。
5. 学校を開かれた施設として、もっと発信することが大切ではないか。学校だけではなく、公民館も図書館ももっと地域とつながり一帯となって活動できるよう、コミ協などの地域団体との結びつきを深めることができればいい。